

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1110A

大項目	I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置								
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承①博物館の施設設備の整備								
【年度計画】 (4 館共通) 1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を引き続き行う。 (東京国立博物館) 1) 本館については収蔵・展示施設の改修と拡充に関する基本計画を引き続き策定する。 2) 平成 31 年度完成予定の管理棟に、トーハク新時代プランに基づき、見せる修理所の設置及びバックヤードツアーの導入に向け準備を行う。									
担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課			事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 城山美香				
【実績・成果】 (4 館共通) ・収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの策定に向け、各施設の建物や設備について調査を行った。 (東京国立博物館) 1) ・本館保存活用計画検討WGを開催し、本館の保存活用計画について作成スケジュールや策定内容等を確認した。 2) ・10月に竣工した文化財管理棟で実施する「見せる修理所」を中心としたバックヤードツアーの開催に向けて、ツアー概要や建物内の利用方法等を検討した。									
【補足事項】									
【定量的評価】	項目	元年度実績	目標値	評価	経年 変化	27	28	29	30
	-	-	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 本館の収蔵施設の拡充のために施工した文化財管理棟は元年度10月末に完成した。 本館保存活用計画策定に向けて元年度は未調査だった約半数の部屋の調査を行い、報告書をまとめた。 本館保存活用計画の第1章計画の概要、第4章防災計画、第6章保護に係る諸手続きを策定した。							
【中期計画記載事項】 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。 (東京国立博物館) 開館後約 80 年が経過した本館の空調設備、収蔵・展示施設について、建物が重要文化財に指定されていることに配慮し、2019 年 ICOM 京都大会及び 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も視野に入れつつ、改修等計画を推進する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 本館の保存活用計画策定に向け、本館全室の調査が完了した。 メンテナンスサイクルの策定に向け、各施設の調査を行った。							

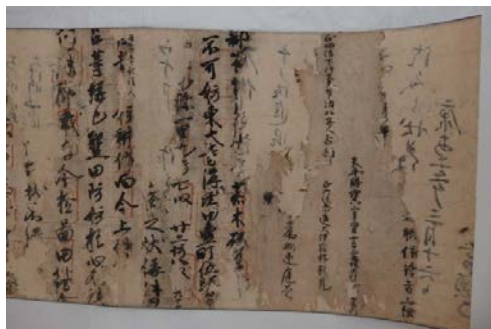
大項目	I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①博物館の施設設備の整備							
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を引き続き行う。 (京都国立博物館) 1) 明治古都館(本館)の免震補強ほかの改修に向けた検討を引き続き行う。								
担当部課	総務課			事業責任者	課長 西尾佐枝子			
【実績・成果】 (4館共通) 1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向け、施設毎の劣化調査や工事履歴の取りまとめを行った。 (京都国立博物館) 1) ・本館免震改修他工事に関して次年度発掘予定範囲について文化庁、京都府・市と協議を行った。また設計・監理業務の与条件設定や設計監理業務委託費の算定等について国土交通省、文化庁、京都府・市等と協議を行った。 ・本館(内外壁、屋根、小屋裏)及び袖塀の劣化調査を行った。								
【補足事項】  本館外壁(装飾)の破損状況								
【定量的評価】 項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 メンテナンスサイクルについては、これまでに引き続き各種調査を行った。 本館免震改修他工事については施設整備費が措置されず工事や発掘調査が行えなかったが、その中でも本館及び袖塀の劣化調査の実施や2年度の発掘調査に関する行政等との協議及び設計監理業務発注段階での各種懸案事項の抽出、検証等を行った。						
【中期計画記載事項】 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を2年度までに構築し、継続的に発展させる。 (京都国立博物館) 京都国立博物館本館(明治古都館)の改修に当たっては、重要文化財に指定された建造物としての保存とともに展示施設としての活用に配慮した改修計画及び観覧環境の再整備計画を進める。								
【中期計画に対する評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 メンテナンスサイクルについては、これまでに引き続き各種調査を行ってきた。2年度に機構全体として取りまとめを行う予定である。 本館免震改修他工事については2年度に実施する発掘調査のための協議や設計監理業務発注段階での設定条件の検証などを実施した。文化財の保存・展示施設の活用に向けた検討及び調査を引き続き実施する。						

大項目	Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承①博物館の施設設備の整備							
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を引き続き行う。 (奈良国立博物館) 1) 狭隘なエントランスの拡充、老朽化した東新館展示室・空調設備機器の整備、及び不足している展示・収蔵スペースの拡充など施設設備の検討を行う。								
担当部課	総務課			事業責任者	課長 臣守常勝			
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・各種設備に関するメンテナンス更新計画に基づき概算要求を行った。 ・展示室等空調設備の修繕計画に基づき空調機器修繕を行った。 ・展示室の安全対策として監視カメラ記録装置の一部更新を行った。 (奈良国立博物館) 1) ・構内バリアフリー及びエントランス拡張整備の検討し、概算要求を行った。								
【補足事項】 (4館共通) 1) ・各種設備のメンテナンス更新計画及び状況調査を行い、概算要求を行った。 ・展示室の適正な温湿度管理のため、老朽化した空調機メンテナンス計画に基づき、機器のメンテナンス修繕を行った。 ・展示室等、監視カメラの健全な状態を保持するため記録装置の一部更新を行った。 (奈良国立博物館) ・エントランス拡張整備計画の図面上の見直しを行った。								
監視カメラ記録装置の一部更新								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 メンテナンスサイクルの更新計画に基づき緊急度の高い事項について概算要求を行った。 また、監視カメラの記録装置について一部不具合が発生したため運営費補助金にて更新を行った。						
【中期計画記載事項】 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。 (奈良国立博物館) 構内のバリアフリー化やエントランスの拡張等観覧環境等の改善及び展示施設の改修等を図るとともに、奈良における文化財の調査研究等の拠点として必要な研究設備を整備する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 老朽化施設の点検・診断を実施した。今後建物のメンテナンスサイクル更新計画の構築を行い、施設の長寿命化へ取り組む。						

大項目	I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ①博物館の施設設備の整備							
【年度計画】 (4館共通) 1) 収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクルの確立に向けた検討を引き続き行う。 (九州国立博物館) 1) 開館から13年が経過し、施設・設備・備品に老朽化がみられるため、展示や調査の施設の維持管理を目的とした改修及び拡充を行う。								
担当部課	学芸部文化財課 学芸部企画課 総務課 広報課			事業責任者	課長 原田あゆみ 課長 白井克也 課長 國谷勝伸 課長 石原隆之			
【実績・成果】 (4館共通) 1) 引き続き収蔵・展示施設及びこれらに関連する設備に関するメンテナンスサイクル計画の検討を行った。 (九州国立博物館) 1) ・老朽化が著しく、緊急度・重要度の高い空調機器のうち、プレート式熱交換器のプレート交換や洗浄を行った。 また、エアハンドリングユニット（空気調和機）の腐食箇所塗装等、一部改修工事を行った。 ・老朽化している、収蔵庫前室の監視カメラ設備の更新を行った。 ・施設の10年整備計画について、より精度を向上させるため、一部改修内容の見直しを検討した。								
【補足事項】 (九州国立博物館) 1) ・空調設備について、老朽による内部腐食が進行し、一部漏水等の不具合が生じていた。今回の塗装作業により、調査、収蔵施設の空気環境を安定的に管理できるよう改善が図られた。また、館全体の空調設備へ冷水・温水を供給しているプレート式熱交換器について、破損したプレートの交換や洗浄を行い、塗装と合わせて、安定的な空気環境の管理ができるよう改善を図った。								
		⇒					⇒	
エアハンドリングユニット内の腐食		塗装作業による改善		監視カメラの更新				
・アナログ式の監視カメラについては、不具合時の修繕部品等の確保が困難となってきたため、デジタル式に更新し、収蔵施設等に関する防犯対策の向上を図った。								
【定量的評価】 項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 空調設備の改修を行うなど、年度計画どおり、展示や調査の施設の維持管理を目的とした改修を行った。						
【中期計画記載事項】 施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を32年度までに構築し、継続的に発展させる。 (九州国立博物館) 開館から10年が経過しており、監視カメラ・空調システム等の施設設備備品に老朽化がみられる。よって展示施設の維持管理を目的とした改修等計画を推進する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 施設の10年整備計画について、より精度を向上させるため、一部改修内容の見直しを検討した。 計画に基づく予算の確保や更新について、独法と県の共同運営であるため、足並みを揃えて実施することが困難な状況である。優先順位の検討等、引き続き計画の精査を行い、実施方法を検討する必要がある。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集								
【年度計画】 (東京国立博物館) 日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的収集及び展示を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。									
担当部課	学芸研究部列品管理課			事業責任者	課長 救仁郷秀明				
【実績・成果】 (東京国立博物館) ・購入件数 11件 内訳：絵画3件、東洋絵画3件、東洋彫刻4件、黒田記念館収蔵品1件 ・決算額 279,200,000円 元年度は、絵画3件 重要文化財「浜松図屏風（伝土佐光重筆）」、重要美術品「山水人物図屏風（伝賢江祥啓筆）」、「葡萄栗鼠図（元賀筆）」、東洋絵画3件 「如来像」、「菩薩像」、「蓮華」、東洋彫刻4件「象」、「飛天像」、「天部像」、「連珠文装飾」黒田記念館収蔵品1件「佐野昭肖像（黒田清輝筆）」の計11件を購入した。									
【補足事項】 ・絵画購入品の重要文化財「浜松図屏風」は、そのダイナミックな構図による力強さときらびやかな金銀による加飾によって、室町時代やまと絵屏風を代表する名品に位置付けられており、当館の展示の充実に大きな役割を果たすものである。「浜松図」を主題とする屏風のなかでも最古の部類に入る作品であり、室町時代やまと絵の研究にとって、また安土桃山時代、江戸時代の大画面障壁画等の研究にとって、きわめて重要である。 ・絵画購入品の重要美術品「山水人物図屏風」は、画風の近似から、祥啓周辺の有力画人の制作と認められる。祥啓系の現存作は小幅の掛軸が多く、希少な屏風作例として大変貴重である。的確なモチーフ描写や整理された画面空間、透明感のある彩色表現など、鑑賞性の高い優品として、本館3室「禅と水墨画」での展示に活用できる。 ・東洋絵画購入品及び東洋彫刻購入品の「如来像」ほかホータン関連作品計7件には、ホータンにおける仏教美術を知る上できわめて貴重な作品であり、いずれも東洋館3室「西域の美術」での展示に活用できる。									
 〔購入品〕重要文化財 浜松図屏風 6曲1双（伝土佐光重筆）									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評定		27	28	29	30
収蔵品件数		119,871件	-	-	経年変化	116,932	117,190	117,460	119,064
うち国宝		89件	-	-		87	88	89	89
うち重要文化財		646件	-	-		634	636	643	644
収集件数		807件	-	-		664	199	268	1,606
うち購入件数		11件	-	-		16	11	12	31
うち寄贈件数		28件	-	-		148	44	84	72
うち編入件数		768件	-	-		500	144	172	1,503
文化財購入費		279,200千円	-	-		225,880	662,350	252,720	146,840
【年度計画に対する総合評価】 評定：A			【判定根拠、課題と対応】 現存作例の少ない室町時代やまと絵屏風の代表作を購入できたことは、当館の収集の歴史において特筆すべきできごとであった。また、収集機会が少ない西域美術のコレクションの充実を図ることもできた。購入件数は30年度より少ないものの28・29年度とは同程度であり、重要文化財「浜松図屏風」など、当館の展示・研究に寄与する作品11件を購入することができた。						
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (東京国立博物館) 日本を中心として広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。									
【中期計画に対する評価】 評定：A			【判定根拠、課題と対応】 重要文化財「浜松図屏風」やホータン関連作品など日本を中心にアジア諸地域で制作された美術、考古資料及び歴史資料を収集し、中期計画に沿った成果を上げることができた。2年度も引き続き情報収集に努め、適時適切な収集を図る。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集							
【年度計画】 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸部		事業責任者		列品管理室長 羽田聡			
【実績・成果】 ・ 購入件数24件 内訳：絵画22件、金工1件、陶磁1件 ・ 決算額 383,800,000円								
【補足事項】 元年度は、「百犬図 伊藤若冲筆」、「円山応挙関係資料 三井南家伝来」、「金剛界曼荼羅三摩耶会図像」、「十巻抄 観音下・天等下」、「宗宝僧正画稿一紙・宗杲僧正画稿三紙」、「金剛童子図像」、「烏枢瑟摩明王図像」、「大日経十二火神図像 賢宝筆」、「理趣経十八会曼荼羅図像」、「不動曼荼羅図像断簡」、「宝楼閣曼荼羅図像断簡」、「軍荼利明王図像」、「降三世明王図像」、「十二神将真達羅大将図像 定智原本」、「日天子図像」、「地藏菩薩図像 定智原本」、「不動明王図像」「深沙大将図像」、「十二天羅刹天図像 珍海様」、「文殊菩薩図像」、「別尊雜記 宝楼閣」、「重要文化財 法華経巻第五(冊子)」、「重要文化財 短刀 銘長谷部国重」、「色絵古裂文食籠」を購入した。								
   重要文化財 法華経巻第五(冊子) 百犬図 伊藤若冲筆 重要文化財 短刀 銘長谷部国重								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
収蔵品件数	8,130件	-	-		7,532	7,794	7,977	8,075
うち国宝	29件	-	-		28	28	29	29
うち重要文化財	200件	-	-		183	198	202	196
収集件数	55件	-	-		423	265	184	98
うち購入件数	24件	-	-		18	14	12	12
うち寄贈件数	31件	-	-		405	251	172	86
うち編入件数	0件	-	-		0	0	0	0
文化財購入費	383,800千円	-	-		797,790	130,088	291,808	106,340
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 重要文化財2件を含む、京都に関わりの深い作品を購入することができた。 また、京都の社寺に伝来していた資料的価値も高い作品を多く購入する等、京都文化を後世に伝える上で重要な作品を購入する事ができた。 そして、寄贈についても各分野に担当研究員が尽力し、数多くの貴重な作品をバランス良く収集する事ができた。						
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 元年度も、京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等について、収集方針に基づき、順調に購入することができた。 また、中期計画の年度別に様々な分野の作品を購入する事を行い、収集作品のバランスもとれてきている。 今後も調査、研究をさらに進める事により、展示・研究に寄与する作品の購入を順次行っていく予定である。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 1)有形文化財の収集							
【年度計画】 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長	内藤 栄				
(奈良国立博物館) 元年度に購入した文化財は以下の3件である。 ・木造二十八部衆立像のうち 迦楼羅王・五部浄居天・毘沙門天・毘楼博叉天 4軀 ・南都寺社古文書・古記録等 22通 ・熊野三所権現懸仏 1面 決算額：100,440,000円								
【補足事項】 購入文化財のうち「南都寺社古文書・古記録等」22通は、もと東大寺伝来の8～12世紀の古文書等と、春日若宮常住神殿守家に伝来した14～15世紀の古文書・古記録等から構成される。これら22通は、昭和の前期頃まで奈良市内の個人が所蔵していたが、その後は行方がわからなくなり、近年、当館の調査により見出された。いずれも奈良の古代中世史学の研究上に重要な史料であるが、とりわけ8世紀の古文書原本が2通含まれる点が特筆される。								
								
				南都寺社古文書・古記録等のうち 左半：坂井郡司符（部分）／右半：摂津職移案				
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
収蔵品件数	1,911 件	-	-		1,883	1,886	1,893	1,908
うち国宝	13 件	-	-		13	13	13	13
うち重要文化財	114 件	-	-		112	112	113	113
収集件数	3 件	-	-		6	3	7	15
うち購入件数	3 件	-	-		4	2	6	6
うち寄贈件数	0 件	-	-		2	1	1	9
うち編入件数	0 件	-	-		0	0	0	0
文化財購入費（千円）	100,440 円	-	-	140,400	5,040	550,000	101,564	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 限られた予算のなか、件数は3件と少ないが、彫刻、書跡、工芸の3分野からバランス良く新収することができた。いずれも仏教美術にかかわる品で、書跡1件については奈良の歴史研究にも資するものであり、当館が所蔵するに相応しい。2年度以降も、分野のバランスを考慮しつつ、対象品の重要性や緊急性にも鑑みながら、計画的に収集を進める。						
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 元年度も、仏教美術及び奈良を中心とした美術、歴史資料等を収集できた。いずれも、巷間に存する文化財の情報収集を常に心がけ、必要に応じて原品調査を実施している当館の活動成果と言える。実際の受け入れに当たっては外部有識者で構成される委員会を開催し、それぞれの収集品が適時適切であると評価されている。今後も引き続き、体系的という観点を考慮しながら、収集に努める。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 1) 有形文化財の収集								
【年度計画】 (九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料等の中から重点的に購入する。									
担当部課	学芸部文化財課			事業責任者	課長 原田あゆみ				
【実績・成果】 ・購入件数 49件。 内訳：絵画6件、書跡1件、金工1件、漆工1件、染織3件、考古34件、歴史資料3件。 ・決算額 461,396,500円 当館の展示テーマである、日本とアジア諸国との文化交流を示す作品を中心に収集した。「釈迦三尊図」や「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」、「龍頭金具」などの優れた文化財を49件購入した。									
【補足事項】 ・絵画分野では 6 件を購入した。京都・鹿王院旧蔵「釈迦三尊図」は、中国・元時代を代表する仏教絵画として著名で、日本における中国美術の受容史を理解する上でも意義の大きい作品である。また、「桃花雉子図」は、桃山画壇を代表する狩野派の巨匠、狩野山楽筆の最充実期の名品としてかねて著名な作品である。長らく所在不明であったがこの度収蔵することができた。いずれも貴重な名品であり、当館を代表するコレクションとなる。 ・漆工分野では 1 件を購入した。国内に伝存する聖龕のうちでも最大のものである。空間を埋め尽くすような文様構成や平蒔絵を基調に螺鈿や針描を交えた技法はいわゆる南蛮漆器に共通しているが、大型で複雑な構造や、内外面に施された入念な加飾から本作品は特別な注文品であったことがうかがえる。絵画を収めるタイプの聖龕は、重文「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」（当館所蔵）など国内外に伝存するものの、立体像を収めるこの種の聖龕は稀少で、まことに貴重である。 ・金工分野では 1 件を購入した。「龍頭金具」は、鉄製の心棒を軸とした鐵形鑄造の装飾金具で、タイ・スコタイ時代に制作された儀礼用具と考えられる。日本国内では東南アジア製の金工品は所蔵数が極めて少なく、東南アジアで展開した鐵型鑄造作品を理解する上で重要な作例である。 ・考古分野では 34 件を購入した。「土偶」は縄文時代を代表する遮光器土偶として世界的にも知られた作例で、縄文時代晩期を代表する亀ヶ岡文化における広域交流を考える上で重要な作例である。「取手付長頸瓶」は型吹きガラス技法及び吹きガラス技法で成形した作品で、当館にこれまで収蔵されていなかったササン朝時代のガラス作品として、文化交流展示（平常展）のシルクロード美術の展示を一層充実させることができる。 ・いずれも日本と大陸の文化交流を物語る作例であり、あるいは時代の美意識や工芸技術の高さを示す優品である。									
									
花鳥蒔絵螺鈿聖龕									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価		27	28	29	30
収蔵品件数		1,279件	-	-	経年変化	525	583	878	1,164
うち国宝		4件	-	-		3	3	3	4
うち重要文化財		42件	-	-		34	37	39	41
収集件数		115件	-	-		13	58	295	286
うち購入件数		49件	-	-		5	36	34	105
うち寄贈件数		66件	-	-		8	22	261	181
うち編入件数		0件	-	-		0	0	0	0
文化財購入費		461,396千円	-	-		609,288	640,412	640,636	907,943
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 元年度も30年度同様に収集件数を大きく伸ばすことができた。当館として収蔵すべき文化交流を端的に示す作品のほか、「釈迦三尊図」や「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」など、時代の美意識を示す作品とをバランスよく収集した。							
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 元年度も、日本とアジア諸国との文化交流を中心とした絵画、書跡、工芸、考古、歴史資料を多数購入、寄贈を受けることにより、貴重な作品を多数収集することができた。今後も、購入、受贈につとめ、より一層のコレクションの充実を図りたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																												
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 2) 寄贈・寄託品の受入れ等																																												
【年度計画】 (4館共通) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。																																													
担当部課	学芸研究部列品管理課				事業責任者	課長 救仁郷秀明																																							
【実績・成果】 (4館共通) 寄贈 ・新規寄贈品件数 28件 内訳：絵画 1件、書跡 6件、金工 4件、刀剣 1件、陶磁 3件、考古 3件、歴史資料 1件、東洋絵画 1件、東洋金工 1件、東洋陶磁 1件、東洋考古 4件、東洋民族 1件、黒田記念館収蔵品 1件 寄託 ・新規寄託品件数 29件 内訳：絵画 6件、書跡 6件、彫刻 5件、金工 4件、陶磁 3件、漆工 1件、考古 1件、東洋絵画 2件、東洋彫刻 1件 ・寄託品は新規に29件を受け入れた。返却568件のうち3件は寄贈品として受理した。																																													
【補足事項】 寄贈 ・作品の寄贈については17人の所蔵者から、28件の文化財を受け入れた。 ・「染付竹虎文大鉢」は初期伊万里のひとつ。小さな高台で大きな鉢を支える形は、磁器の焼成技術が未だ十分でなかった頃の作であることを示す。染付の筆運びが未熟ながら、のびやかでおおらかな表現も初期伊万里染付大皿の特徴として挙げられ、また染付大鉢として三つの脚をもつ珍しい作例であり、初期伊万里の優品として展示に大いに活用できる。 ・「龍鏡」は、古墳時代の倭鏡（日本列島製）。古墳時代の銅鏡の中でも、錆がほとんどなく文様が明瞭な優品であり、今後の展示に大いに活用できる。 寄託 ・作品の寄託については6機関12個人から、29件の文化財を新規に受け入れた。 ・寄託品のうち、重要文化財は「五秘密像」「聖徳太子絵伝」の絵画2件、「蘭溪道隆（大覚禪師）坐像」、「地藏菩薩立像」「不動明王立像」の彫刻3件、「桜山鶴時絵硯箱」の漆工1件である。																																													
<table><tr><td>【定量的評価】項目</td><td>元年度実績</td><td>目標値</td><td>評価</td><td>経年変化</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr><tr><td>新規寄贈品件数</td><td>28件</td><td>－</td><td>－</td><td></td><td>148</td><td>44</td><td>84</td><td>72</td></tr><tr><td>寄託品件数</td><td>2,591件</td><td>－</td><td>－</td><td></td><td>3,072</td><td>3,075</td><td>3,109</td><td>3,130</td></tr><tr><td>うち新規寄託品件数</td><td>29件</td><td>－</td><td>－</td><td></td><td>31</td><td>37</td><td>71</td><td>45</td></tr></table>										【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30	新規寄贈品件数	28件	－	－		148	44	84	72	寄託品件数	2,591件	－	－		3,072	3,075	3,109	3,130	うち新規寄託品件数	29件	－	－		31	37	71	45
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30																																					
新規寄贈品件数	28件	－	－		148	44	84	72																																					
寄託品件数	2,591件	－	－		3,072	3,075	3,109	3,130																																					
うち新規寄託品件数	29件	－	－		31	37	71	45																																					
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 元年度は9月に大倉集古館が増改築工事を終え、リニューアルオープンしたことに伴い、公益財団法人 大倉文化財団からの寄託品503件は、寄託当初の計画どおり返却し、同財団がこれまで管理していた他の所蔵者からの寄託品25件も当初の計画どおり返却したため、大幅に寄託品件数は減少したものの、重要文化財6件を含む29件の新規寄託を受け入れるなど、寄贈・寄託ともに着実に受け入れを進めることができた。																																										
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。																																													
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 多数のコレクションを寄託している所蔵者への寄託品の返却があったため、寄託件数は著しく減少したものの、中期計画に基づき寄贈・寄託品の新規受け入れについては積極的に行い、28件の寄贈、重要文化財6件を含む29件の寄託を受け入れた。2年度も引き続き個人コレクターや社寺等との信頼関係を維持・拡大し、寄贈・寄託の推進に努める。																																										

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																									
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 2) 寄贈・寄託品の受入れ等																																									
【年度計画】 (4館共通) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。																																										
担当部課	学芸部			事業責任者	列品管理室長 羽田聡																																					
【実績・成果】 (4館共通) ・寄贈 新規寄贈品件数31件 内訳：絵画 7件、書跡 2件、金工 8件、陶磁 3件、漆工 1件、染織 7件、考古 3件 ・寄託 新規寄託品件数149件 内訳：絵画 90件、書跡 6件、彫刻 1件、金工 7件、陶磁 31件、漆工 9件、染織 3件、考古 2件																																										
【補足事項】 元年度は、下記の指定品3点をはじめとして新規寄託品を網羅的に受け入れることができた。																																										
																																										
国宝「夜色楼台図 与謝蕪村筆」			重要文化財 霰地真形釜			重要文化財「洲浜千鳥螺鈿硯箱」																																				
<table><tr><td>【定量的評価】項目</td><td>元年度実績</td><td>目標値</td><td>評価</td><td>経年変化</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr><tr><td>新規寄贈品件数</td><td>31件</td><td>－</td><td>－</td><td rowspan="3"></td><td>405</td><td>251</td><td>172</td><td>86</td></tr><tr><td>寄託品件数</td><td>6,520件</td><td>－</td><td>－</td><td>6,112</td><td>6,189</td><td>6,235</td><td>6,434</td></tr><tr><td>うち新規寄託品件数</td><td>149件</td><td>－</td><td>－</td><td>232</td><td>227</td><td>79</td><td>232</td></tr></table>									【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30	新規寄贈品件数	31件	－	－		405	251	172	86	寄託品件数	6,520件	－	－	6,112	6,189	6,235	6,434	うち新規寄託品件数	149件	－	－	232	227	79	232
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30																																		
新規寄贈品件数	31件	－	－		405	251	172	86																																		
寄託品件数	6,520件	－	－		6,112	6,189	6,235	6,434																																		
うち新規寄託品件数	149件	－	－		232	227	79	232																																		
【年度計画に対する総合評価】 評価：A				【判定根拠、課題と対応】 寄贈については、各分野バランスよく受け入れる事ができた。 また、寄託については、国宝1件、重要文化財3件と貴重な作品を含め、多くの作品を受け入れる事ができた。特に、社寺から寄託品も多く受け入れており、当館ならではの寄託品の受け入れを行う事ができている。 そして、各分野の研究員による寄託者との信頼関係の構築に尽力している活動が更なる寄託品の受け入れに貢献している状況である。																																						
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。																																										
【中期計画に対する評価】 評価：B				【判定根拠、課題と対応】 当館がテーマとする京都の文化を基軸にした寄贈品・寄託品の受け入れを、分野毎のバランスよく行うことができた。受贈、受託した作品に関しては、今後の展示に活用をしていく計画である。 また、寄贈者に対して、税制措置のサポートを行う等の当館独自の取り組みも行っており、寄贈者の満足度向上に努める事ができている。 今後も所蔵者との信頼関係を大切に、より一層のコレクションの充実を行っていきたい。																																						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 2) 寄贈・寄託品の受入れ等							
【年度計画】 (4館共通) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。								
担当部課	学芸部			事業責任者	部長 内藤栄			
【実績・成果】 (4館共通) 寄贈 元年度に新規の寄贈品受け入れはなかった。 寄託 寄託を受け入れた文化財は以下の8件である。 ・彫刻3件：「銅造誕生釈迦仏立像」1軀（個人） 「木造天部立像」1軀（個人） 「木造菩薩立像」1軀（個人） ・絵画2件：重要文化財「絹本着色融通念仏縁起絵」1幅（安楽寺） 奈良市指定文化財「絹本着色当麻曼荼羅図」1幅(来迎寺) ・考古1件：重要文化財「大和竹林寺忍性墓出土品」1括（竹林寺） ・歴史資料2件：重要文化財「法隆寺金堂壁画写真ガラス原板」363枚（法隆寺） 重要文化財「法隆寺金堂壁画写真原板」83枚（株式会社便利堂）								
【補足事項】 ・彫刻部門で受け入れた「木造菩薩立像」は、平安時代の「興福寺千体仏」の一部とみられる。研究蓄積のない作品であり、その調査に期待がもたれる。また「木造天部立像」は平安時代後期（院政期）の天部像の佳作であり、展示効果の期待される作品である。 ・絵画部門が受け入れた重要文化財の「絹本着色融通念仏縁起絵」は、地元の安楽寺（奈良県田原本町）に伝来した南北朝時代の貴重な縁起絵で、国庫補助による修理が完成した作品である。また「絹本着色当麻曼荼羅図」も地元来迎寺（奈良県奈良市）に伝来した鎌倉時代の当麻曼荼羅の写本で、30年度で修理が完成したため展示活用が期待される作品である。 ・考古部門の重要文化財「大和竹林寺忍性墓出土品」は、ハンセン病患者救済で知られる鎌倉時代の僧侶忍性の墓から出土した計36件におよぶ遺品群である。嘉元元年（1303）銘の忍性骨蔵器をはじめ優れた金工品を含み、展示・研究の両面で活用が期待される。 ・歴史資料部門が受け入れた法隆寺金堂壁画の写真原板類は、金堂壁画焼失前の貴重な写真記録である。近時に重要文化財に指定されたものであり、これを活用した特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板－文化財写真の軌跡－」（12月7日～2年1月13日）を開催している。								
								
					「木造天部立像」1軀 （個人）			
【定量的評価】								
項目	元年度実績	目標値	評価	経年 変化	27	28	29	30
新規寄贈品件数	0件	－	－		2	1	1	9
寄託品件数	1,974件	－	－		1,956	1,958	1,962	1,974
うち新規寄託品件数	8件	－	－		7	37	12	18
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 寄贈品の受け入れまでは至らなかったが、鑑査会議を待つ寄贈候補作品や寄贈申し出作品は各部門で蓄積しており、事業は前進を続けている。寄託作品は重要文化財を含む質の高い作品を受け入れており、調査研究の進展及び展示活用の充実が大いに期待されるところである。						
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 重要文化財やそれ相当の作品の受け入れは、当館への信頼と期待に基づき成立するものである。元年度も地元の寺社や収集家との絆をもとに、一定量の寄託品が確保された。また、それらは展示効果の高い作品や、修理が完了して安全に展示活用できる作品でもあり、「積極的な活用」という計画目標にも大きく寄与するものと評価されよう。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																											
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ②有形文化財の収集等 2) 寄贈・寄託品の受け入れ等																																											
【年度計画】 (4館共通) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかける。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努める。また、展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。																																												
担当部課	学芸部文化財課			事業責任者	課長 原田あゆみ																																							
【実績・成果】 ■寄贈 ・九州在住の方より56件の筑紫箏に関する貴重資料の寄贈を受け入れた。 内訳：漆工7件、歴史資料49件。 筑紫箏は筑紫箏曲または筑紫流箏曲と呼ばれ、安土桃山時代に雅楽の合奏曲である越天楽から誕生し、江戸時代に佐賀藩内で伝承されたといわれる箏曲である。明治時代、大正時代にも、今泉千秋、野田聴松によって筑紫箏は受け継がれたものの、その後は消滅したと考えられた。しかし昭和になって、村井れいと井上ミナの2名が伝承者であることが判明した。村井、井上両氏は昭和32年(1957)に文化財保護委員会(現・文化庁)から「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財(筑紫箏)の技芸者」として登録され、研究者やメディアから大いに注目を受けた。しかし、両氏とも伝授者を残さなかったため、筑紫箏の伝承者は消滅した。本コレクションは村井氏が残した資料群を中心としており、筑紫箏の曲譜だけでなく、筑紫箏の伝承の歴史を伝える資料も含んでいる。現在、伝承者が不在になってしまった筑紫箏の歴史と、筑紫箏を残そうと奮闘した人々の活動を伝える資料である。 ・ほかにも10件の寄贈を受け入れた。 内訳：絵画1件、陶磁5件、考古4件。 「五鈴杏葉」は未報告の資料であり、古墳時代の馬具を紹介する上で、展示効果が高い。 ■寄託 ・432件の新規寄託があった。 内訳：絵画349件、書跡42件、彫刻3件、陶磁23件、考古13件、歴史資料2件 当館とゆかりの深い天神像のまとまったコレクションや、仙厓関係資料など、いずれも当館での活用が大いに見込まれる作品の寄託を受け入れた。																																												
																																												
					(寄託) 網敷天神像 祖参賛																																							
【補足事項】 30年度に受贈した作品は、文化交流展示室内において開室した寄贈者顕彰室及び新収品展において紹介し、寄贈者を顕彰した。元年度受贈・受託した作品についても、その一部を2年度内に寄贈者顕彰室及び新収品展において公開する予定である。																																												
<table><tr><td>【定量的評価】 項目</td><td>元年度実績</td><td>目標値</td><td>評価</td><td>経年変化</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr><tr><td>新規寄贈品件数</td><td>66件</td><td>-</td><td>-</td><td></td><td>8</td><td>22</td><td>261</td><td>181</td></tr><tr><td>寄託品件数</td><td>1,300件</td><td>-</td><td>-</td><td></td><td>885</td><td>893</td><td>934</td><td>931</td></tr><tr><td>うち新規寄託品件数</td><td>432件</td><td>-</td><td>-</td><td></td><td>97</td><td>44</td><td>45</td><td>7</td></tr></table>									【定量的評価】 項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30	新規寄贈品件数	66件	-	-		8	22	261	181	寄託品件数	1,300件	-	-		885	893	934	931	うち新規寄託品件数	432件	-	-		97	44	45	7
【定量的評価】 項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30																																				
新規寄贈品件数	66件	-	-		8	22	261	181																																				
寄託品件数	1,300件	-	-		885	893	934	931																																				
うち新規寄託品件数	432件	-	-		97	44	45	7																																				
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 文化交流を基軸に据えた寄贈品・寄託品の受入を、分野のバランスよく行うことができた。いずれも質量ともに充実しており、当館のコレクションの核となるものである。																																										
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。																																												
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 文化交流を基軸に据えた寄贈品・寄託品の受入を、分野のバランスよく行うことができた。受入にあたっては、できるだけ迅速に事前調査を行い、当館への寄託、寄贈につなげるべく交渉を行った。その結果、とくに絵画分野は、天神関係、仙厓関係の優品をはじめ、当館がテーマとする文化交流展示に大いに活用できる資料が加わった。30年度に引き続き、多数の寄贈を受け入れたことで、コレクションが飛躍的に充実した。																																										

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 1/2							
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。 (東京国立博物館) ア 収蔵品及び一時預品の情報調査を継続して行う。 イ 古写真・ガラス乾板・館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用・公開するための作業を進める。								
担当部課	学芸研究部列品管理課			事業責任者	課長 救仁郷秀明			
【実績・成果】 (4館共通) ア 新規収蔵庫の棚、セキュリティ等の詳細を確認し、運用に向けての準備を行った。 また、東洋館収蔵庫、平成館収蔵庫、資料館収蔵庫の扉の劣化に伴い補修を行った。 イ 元年度は505件の寄託品について所在確認作業を行い、収蔵場所の確認・更新を行った。 (東京国立博物館) ア 未整理・未登録の法隆寺献納宝物「裳残欠」(奈良時代・8世紀、N-324) 1件につき、列品としての編入につながる調査を行った。 「刀身残片」(E-15465) など3件につき、台帳上の員数修正につながる調査を行った。 九州国立博物館に長期管理換されていた作品の返却に伴い、74件の収蔵品について情報調査を行った。 浮世絵画帖32件の調査を行い、画帖に貼り込まれた浮世絵1680点につき、作品情報を収蔵品管理システムに登録した。 イ 古写真・ガラス乾板等の旧資料部関係品を整理し、767件の写真資料を列品として編入した。								
								
					収蔵品の情報調査風景			
【補足事項】 (東京国立博物館) ア 未整理、未登録の考古資料約160箱分について、整理及びクリーニング処置を行い、管理状況を改善した。								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
収蔵施設の収容率	133.8%	-	-	-	-	180%	180%	133.8%
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 収蔵庫の設備の充実のための作業、寄託品・収蔵品の確認作業を実施し、順調に成果をあげている。写真資料は767件を列品として編入した。						
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略)展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。(略)								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 新規収蔵庫運用前の準備や、寄託品・収蔵品・未登録品の確認・整理を着実にを行い、順調に成果をあげている。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 2/2							
【年度計画】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 エ 文化財情報システム(業務システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新する。 (東京国立博物館) ウ 外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」(学芸業務支援システム protoDB)の構築を進め博物館機能の充実を図る。 エ 列品にかかる統計業務の精度を高め、効率化をはかるべく、列品台帳のデジタル・アーカイブ化と情報の利活用向上に向けたシステム導入に向けて取り組む。 オ 収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を前中期目標の期間の実績の年度平均以上実施し、公開を推進する。 カ ガラス原板・未整理のブローニー・スライド・写真カード等のデジタル化について引き続き検討する。 キ 管理棟への収蔵品・寄託品等の移動プランの策定など、移動のための準備にとりかかる。								
担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸研究部列品管理課			事業責任者	課長(兼情報資料室長) 今井敦 課長 救仁郷秀明			
【実績・成果】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品に関し、新規にデジタル撮影した画像は画像管理システムに随時登録し、データ整備を推進した。 エ 文化財情報システムを運用して、新規の文化財の購入11件・寄贈28件・編入768件・出品29件にかかる作品情報を追加し、収蔵品・寄託品のテキストデータを更新した。 (東京国立博物館) ウ protoDBで更新されたデータを「国立博物館所蔵品統合検索システム(ColBase)」に自動的に反映する機能を開発した。 エ デジタル・アーカイブ化した美術品台帳のテキストおよび画像データを、29年度に導入した「収蔵品データ管理システム」に取り込むと同時に、検索機能を実装して機能を拡張した。また、収蔵品データの整備を推進した。 オ 収蔵する和古書・漢籍(戦前の展覧会目録を含む)について24,699件のデジタル撮影を行った。 カ 35mmフィルムの状態を確認し、一部についてスキャンを試行した。 キ 2-3年度の移動対象となる収蔵品等を選定し、作業スケジュールや作品移動にかかる入札に向けた仕様等について検討した。								
【補足事項】 エ 所有者に返却した寄託品568件についても、システム上のテキストデータを更新した。								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	27	28	29	30
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数	26,475件	24,471件	B		30,013	25,334	26,972	25,575
和古書・漢籍	20,916件	-	-		13,924	20,224	19,002	25,575
洋古書	5,559件	-	-		16,089	5,110	7,970	0
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 元年度も、年度計画に従ってデジタル化やアーカイブ化について順調に成果を上げている。管理棟完成にともなって、収蔵品等の移動プランを検討し、2年度の移動に向けて順調に準備が進められている。2年度は作業受注業者と密に連絡を取り、状況に応じて移動プランを更新しながら、安全かつ円滑に移動作業を進めていかなければならない。						
【中期計画記載事項】 (略)収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき順調に成果を上げている。画像データを継続的に蓄積するとともに、文字データの整備を推進し、業務や調査研究に役立てた。和古書のデジタル化も、前中期目標の期間の実績以上とすることができた。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理 1/2							
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。								
担当部課	学芸部			事業責任者	列品管理室長 羽田聡			
【実績・成果】 (4館共通) ア 元年度は、金工収蔵庫の改善を実施すべく、金工作品収納用の刀袋を作成した。これにより、従来の刀袋では懸念されていた虫害被害を解消できるようになり、作品保護を強化する事ができた。 イ 毎年度2回行う寄託品の期間継続手続きにあわせて、寄託品の所在確認作業を行った。また、収蔵品・寄託品に関し、必要に応じて文化財情報システムを適宜修正した。								
【補足事項】 旧刀袋は化学繊維で作られた袋を利用しており、作品保護の観点から考えると望ましい状況ではなかった。新刀袋では正絹藍染めにより防虫対策を施した素材を利用することで、作品保護をより良い環境にする事ができた。								
								
旧刀袋		新刀袋						
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
収蔵施設の収容率	100%	-	-	-	-	100%	100%	100%
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 元年度においては、新規の刀袋を作成したことにより、作品保護を強化する事ができた。 また、寄託品の所在確認作業も予定通り2回実施することができた。さらに、連絡が取れない寄託者の所在確認に努めた。その結果、所在不明であった寄託者と連絡が取れるようになったケースがあり、一定の効果を上げる事ができた。今後も、継続的に寄託者との連携を強化し、寄託者が安心して寄託できるように尽力していく。						
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略)展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。(略)								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 元年度も環境モニタリング等のデータを活用し、展示・調査研究等の業務に活かすことができた。 また、寄託継続証の発送作業を通じて、寄託者の異動(寄託名義人の転居・死亡・相続等)を把握し、その都度、適切な事務手続きを行う事ができた。寄託者の所在不明等の課題を解決するために、より良い寄託者との連携体制を整備する事を今後も取り組んでいく予定である。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 2/2								
【年度計画】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 エ 文化財情報システム(業務システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新する。 (京都国立博物館) ア 収蔵品写真等のガラス乾板・マイクロフィルム・カラーフィルム・等のデジタル化を実施する。									
担当部課	学芸部			事業責任者	列品管理室長 羽田聡				
【実績・成果】 (4館共通) ウ 収蔵品・展覧会出品作品等の新規撮影は、デジタル撮影を5,990件(カット)行った。 エ 収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システムへ登録した。(元年度登録件数:25,509件) ・購入、寄贈、寄託等に伴い、新規に撮影を行い、文化財情報システムの収蔵品データを適宜更新し、展示・調査研究の業務に役立てた。 (京都国立博物館) ア 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を継続し、5,333件実施した。以下、内訳を記す。 *館内のフィルム用スキャナを運用しつつ、外部委託による既存フィルムのデジタル化を進め、元年度は5,302枚のデジタル化を行った。 *継続してマイクロフィルムのデジタル化を進めており、元年度は31リール(17,109コマ)のデジタル化を行った。									
【補足事項】 (4館共通) ウ 当館の展覧会出品作品の撮影は、特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙と王朝の美」(10月12日～11月24日)、西国三十三所 草創1300年記念特別展「聖地をたずねてー西国三十三所の信仰と至宝ー」(2年4月11日～5月31日)を対象として進めた。 ・収蔵品図版目録「京都国立博物館寄託の名宝 美を守り、美を伝える」の作成のため、既存フィルムを使いつつもデジタルカメラを使用し、作品の再撮影を積極的に行った。 ・特集展示「新収品展」(7月2日～8月4日)など特集展示・特別企画のため、作品の撮影を行った。 ・須磨コレクション等を含めた収蔵品の撮影を継続して行った。 ・調査研究事業「近畿地区(特に京都)社寺文化財の調査研究 河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究」について、30年度に引き続いて観心寺、及び教興寺・高貴寺を調査し、作品の撮影を行った。 (処理番号1411Bア参照) (京都国立博物館) ア 外部委託とともに当館職員によるスキャニング作業を積極的に行い、フィルムのデジタル化を促進した。 ・ガラス乾板の整理作業は、京都造形芸術大学の協力の下、調査データの入力及びデジタル化したデータの整理作業が終了した。 ・原板フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを継続して行った。 ・マイクロフィルムのデジタル化は、劣化の進行したフィルムを残し、全て終了した。劣化が進行したフィルムは元年度にデュープフィルムを作成しており、2年度にスキャニングする。									
									
柿本人麻呂像 (京都国立博物館蔵)									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数(既存フィルム)		5,333件	3,816件	A		5,966	5,820	4,444	3,380
【年度計画に対する総合評価】 評価:A		【判定根拠、課題と対応】 当館職員による館内でのスキャニング枚数が増えたこと及び外注も増やしたことにより、既存フィルムのデジタル化件数が増加した。マイクロフィルムのデジタル化は劣化が激しいものを除き、終了した。8×10フィルムのデジタル化が終了した。							
【中期計画記載事項】 (略) 収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価:B		【判定根拠、課題と対応】 積極的にデジタル化を進めたことにより、8×10フィルムのデジタル化が終了した。また、文化財情報システムの収蔵品データが充実し、公開用の館蔵品データベースの公開件数を増やすことができた。今後も積極的にデジタル化を進めていく。							

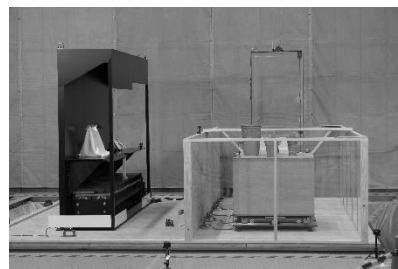
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理 1/2							
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。								
担当部課	学芸部			事業責任者	部長 内藤栄			
【実績・成果】 (4館共通) ア ・収蔵庫等空調設備の修繕計画に基づき空調機器修繕を行った。 ・施設設備の充実、改善に向けた検討を行う、環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループを毎月1回(計12回)開催した。 イ 寄託継続証の定期的な発行に際して、各部門に寄託品の収蔵状況の確認を求めた。さらに証書の発送・通知にあたって、寄託者の異動(宗教法人の代表役員の交代や名義人の転居、死亡・相続など)を把握した。特に寄託件数が多く、古くからの寄託(明治から昭和前半にかけて)が続いている寺社については、新たな証書を発行するべく、現物の確認と相手先の旧証書との照合作業を開始した。								
【補足事項】 (4館共通) ア 学芸部の書跡・絵画・彫刻・工芸の各部門と施設担当部署で構成するワーキンググループを開催し、展示室、収蔵庫等施設の維持管理、充実・改善に向けた検討を行った。								
								
収蔵庫等の空調ファンモーターメンテナンス								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
収蔵施設の収容率	99%	-	-		-	99%	99%	99%
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 毎月1回、環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループを開催し、収蔵庫等の温湿度変異調査の報告・改善・検討を行った。また、文化財を保管・展示している諸室の適切な温湿度維持のため、改善に向けた検討を行い、計画的にメンテナンスを行うことで、環境改善の問題確認、改善に取り組むことができた。						
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略)展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。(略)								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 収蔵庫、展示室の修繕計画に基づき空調機器の修繕を行うことで収蔵品の保存環境を維持し、適切な温湿度管理が図られた。 中期計画に沿って、寄託品の所在確認および寄託者の異動把握は順調に進められ、適正な寄託品管理が継続できるように努めた。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 2/2							
【年度計画】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 エ 文化財情報システム(業務システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新する。 (奈良国立博物館) ア 収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。 イ 画像データベースの個別データを追加更新する。 ウ 修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について引き続き検討する。 エ 収蔵品写真等の既存の白黒フィルムのデジタル化を進める。								
担当部課	学芸部			事業責任者	資料室長 宮崎幹子			
【実績・成果】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進した。 エ 文化財情報システム(業務システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新した。 (奈良国立博物館) ア 収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図った。 イ 画像データベースの個別データを追加更新した(4,465件)。 ウ 修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討した。 エ 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した(3,001件)。								
【補足事項】 写真(フィルム、ガラス乾板)のデジタル化、デジタル撮影を実施するとともに、収蔵品データベース並びに画像データベースの更新を適宜行った。 平成30年(2018)度より、明治28年(1895)の開館以降の館蔵品・寄託品の状況を明らかにすべく館史史料の整理に着手しており、目録作成と撮影を継続して実施した。 特別展、特別陳列、文化財の修理・購入等に際して多数のデジタル撮影を行った。なかでも3年度に予定している仏師快慶の大型図録刊行に向けて、重要文化財 阿弥陀三尊立像(兵庫・浄土寺)他の撮影を実施したことが特筆される。撮影の機会が限定される巨大な仏像であり、学界の共有資源となる貴重な基礎情報を得ることができた。								
				重要文化財 阿弥陀三尊立像(兵庫・浄土寺)撮影風景				
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数(既存フィルム)	3,001件	5,373件			3,875	3,081	3,017	3,047
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 カラーフィルムのデジタル化が完了したため、29年度よりモノクロフィルムのデジタル化件数を数値として計上している。例年どおり、順調に成果をあげている(例年、3,000件程度実施予定)。						
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 カラーフィルムのデジタル化が完了したことにより当初の目標は既に達成されている。現在はモノクロフィルムのデジタル化を進めており、それを実績としている。「デジタル化」の主流は既にデジタル撮影に移行して久しく、今後の指標としては、デジタル撮影の件数も判定に加えていくことが相応しい。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1) 有形文化財の管理 1/2							
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を行う。 イ 定期的に寄託品の所在確認作業を行う。								
担当部課	学芸部文化財課							
事業責任者	課長 原田あゆみ							
【実績・成果】 ア ・施設設備に関しては収蔵庫10か所の扉の点検を行い、開閉時に電気鍵にエラーが出る傾向の高い扉については、施工業者に依頼し、調整作業を行った。 ・収蔵品の棚卸し作業のため、収蔵庫内のWi-Fi環境を整備した。 ・2年度から長期預りを予定している資料(3,200点)保管の検討を行った。 イ ・当館は所蔵品以外にも長期借用(約1,500件)、寄託品(約900件)など数多く管理している。元年度から3年間計画にて収蔵品の棚卸しを開始した。 ・棚卸しを行うにあたり、収蔵品システムの登録状況確認、整理作業を進めた。 ・収蔵品の棚卸し準備として全点の調書を整備した。								
【補足事項】   収蔵庫扉の調整作業  収蔵品(所蔵品、寄託品、長期借用品)実査								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
収蔵施設の収容率	80%	-	-	-	-	80%	85%	80%
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 年度計画どおり、収蔵庫の点検整備を行い、必要に応じた修理、調整を行った。寄託品の所在確認を行ったほか、収蔵品の棚卸しが本格的に始動し、計画性をもって作業を進めている。						
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、(中略)展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 2年度に新たに受入を予定している資料について、関係者にて保管場所と保管方法の確認、検討を行った。 計画に基づく収蔵品等の管理のために、収蔵庫内棚卸し、資料登録情報の更新を行うとともに、保管方法の現状確認と適切な保管方法についても検討した。						

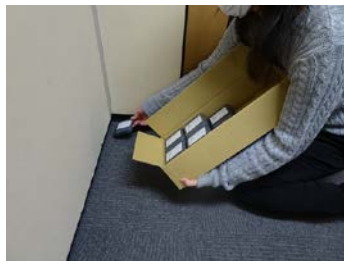
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 1)有形文化財の管理 2/2								
【年度計画】 (4館共通) ウ 収蔵品・寄託品等に関し、新規にデジタル撮影した画像等を蓄積し、それらに関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。 エ 文化財情報システム(業務システム)の運用を継続し、収蔵品データを更新する。 (九州国立博物館) ア 文化財情報(収蔵品データベース、寄託品・借用品データベース、陳列案管理データベース、画像データベース)の一元的管理が可能な業務システム構築を進める。									
担当部課	学芸部文化財課			事業責任者	課長 原田あゆみ				
【実績・成果】 (4館共通) ウ 専任撮影技師による4,555件(カット)の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。 エ 文化財情報システムの運用を継続し、1,002件の収蔵品データを新規登録した。 (九州国立博物館) ア 列品・寄託品・借用品などの有形文化財情報と、陳列・画像・修復などの情報を一元管理するシステムを継続的に運用し、また、同システムの改修・整備を進めた。									
【補足事項】 (4館共通)									
									
大型平面資料の撮影			彫刻の撮影			撮影対象資料の展開作業			
(九州国立博物館) ア 元年度は、来館者による展示品の撮影の可否を含む、文化財の活用条件を一元管理するためにシステムの整備を進めた。すでに構築済みの陳列案管理データベースや題箋管理データベースとの連携により、業務上必要な情報へのアクセシビリティを飛躍的に向上させ、収集した情報の活用を推進することができた。引き続き、基盤強化と情報統合の作業を進め、博物館活動を支援する体制の構築を目指す。									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価	経年 変化	27	28	29	30
収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数 (既存フィルム)		(完了)	一件	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 元年度は「九州国立博物館文化財情報システム」の文化財活用条件を管理する機能を追加したほか、修理記録情報を増やすことで文化財情報一元管理がさらに進んだ。新規撮影画像の画像データ処理、データベースの整備を進め、内外へ公開することで利便性を向上した。						
【中期計画記載事項】 (略) 収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ(画像データ、テキストデータ等)を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。(略)									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 計画通り、収蔵品に関する情報を一元管理し、展示や貸与、修理、調査研究に活用していくためのシステムを整備した。また、外部に文化財情報を発信し、博物館活動の活性化に供した。 30年度に引き続き新規撮影を進め、既存画像をポジフィルムに替えて高精細カメラにて再撮影する作業も継続している。例年通り2,000カット以上の撮影が見込まれており、専任技師による撮影が必要不可欠である。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 2) 有形文化財の保存								
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため IPM (総合的有害生物管理) の徹底を図る。 イ 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (東京国立博物館) ア 本館収蔵庫の整備計画の根拠となる環境情報の収集、解析、評価を行う。 イ 収蔵品等の保存と展示に関する環境について全館的視野にたつて調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 ウ 収蔵・展示施設における地震対策に関わる調査研究を行う。 エ 収蔵・展示施設の温湿度、空気汚染物質など保存環境に関する年次報告を整備する。 オ 輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。									
担当部課	学芸研究部保存修復課			事業責任者	課長 富坂賢				
【実績・成果】 (4館共通) ア 収蔵庫等36ヵ所を対象に生物生息調査及び害虫防除のための防虫薬剤設置を実施した。生物生息調査結果から改善を要すると判断した7ヵ所の修理室、収蔵庫に対して除塵防黴清掃を実施した。 イ 収蔵品を中心とした保存カルテを1,574件作成した。 (東京国立博物館) ア 本館収蔵庫の温湿度環境情報を収集し、それらの解析から、収蔵環境の特性評価を行った。 イ 収蔵庫及び展示室304ヵ所の温湿度を計測し、5ヵ所の収蔵庫、展示室に対して各7種の空気汚染物質濃度を計測し、データの解析・蓄積を行った。 ウ 展示ケースの実物を用いた加振実験を行い、現行の免震装置上に支持具で固定された資料が仙台波、益城波を受けた際に示す挙動を観測した。 エ 収蔵庫及び展示室303ヵ所の温湿度、11ヵ所の空気汚染物質に関する年次報告を整備した。 オ 館内輸送中に台車上で生じる振動及び衝撃を計測し、館内輸送経路の床面形状がもたらす影響について検証した。									
【補足事項】									
【定量的評価】 項目		元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
-		-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 館内保存環境の現状把握のために、生物生息、温湿度、地震対策、空気環境、輸送中の振動に関する調査を実施した。特に従来からの大きな課題であった有害生物対策については、問題箇所の除塵防黴清掃を過去最大規模で実施し、清浄環境の維持に努めた。							
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 30年度に今後の課題とした大規模災害に対する館全体の防災レベルに関して、元年度は展示における地震対策の安全性検証を実施した。兵庫県南部地震以降に生じた地震動を受けた現状の免震装置や支持具の問題点の一部が明らかとなった。より高度な地震対策の実現を目指して調査研究を継続する予定である。							



加振試験の様子

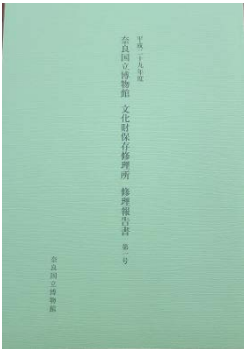
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 2)有形文化財の保存							
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。 イ 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (京都国立博物館) ア 平成知新館の展示環境及び収蔵施設、東収蔵庫、北収蔵庫の保存環境に関わる情報収集及びデータ解析を行う。 イ 明治古都館の改修計画に役立てるため、環境データの収集などを行う。 ウ 資料棟、文化財修理所、外部収蔵庫（KICK）も含めた、包括的な環境管理体制の構築を目指す。								
担当部課	学芸部			事業責任者	列品管理室長 羽田聡 保存科学室長 降幡順子			
【実績・成果】 (4館共通) ア 館内外の保存科学担当者をはじめとする関係者との連携を強化し、IPMの徹底を図った。 イ 収蔵品の保存カルテを217件作成した。 (京都国立博物館) ア 平成知新館では専用LAN経由環境モニタリングシステムを構築し継続的な温湿度調査を実施している。また定期的に全館を網羅した昆虫類の生息調査を実施し、随時、収蔵庫内の浮遊菌・付着菌調査、検知管による空気質調査を実施している。改修工事が終了した東収蔵庫は、温湿度調査・昆虫類生息調査モニタリングを開始し、作品移動前の環境調査として有機酸等の空気質調査を開始した。 イ 明治古都館では収蔵庫および限定的使用を実施した展示室について、温湿度調査（通年）、昆虫類生息調査を継続して実施した。またイベント会場として活用する際には、イベント終了後のIPMを徹底するようにした。 ウ 各施設の温湿度データ、昆虫類生息調査、浮遊菌類調査等を実施し、外部収蔵庫（KICK）では現地管理者と毎月打ち合わせを実施するなど連携強化を図ることができた。さらにこれらの施設の無線モニタリングシステムの構築について検討を始めた。								
【補足事項】   KICK 収蔵庫内の落下防止ネットの設置および飛び出し防止ベルトの設置状況								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 貸与に伴う点検時を主体として行っている収蔵品の保存カルテを継続して行い、217件作成した。 30年度に引き続き、展示・収蔵施設の温湿度環境モニタリング・空気質調査・昆虫類生息調査等の実施とそのデータ解析結果をもとに、包括的な環境管理体制の構築を目指し、各施設の施設整備関連部署との連携強化をより進めることができた。外部収蔵庫（KICK）では、年間を通して温湿度のモニタリング・昆虫類生息調査等を実施し、文化財の受け入れに適切な保管環境を維持した。今後は迅速な対応を実施するための強固な体制作りと、無線LANを活用したモニタリングシステムに未対応な施設のシステム構築に向けて検討していく必要があると考える。						
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 適切な展示・保存環境の保持のための地震等への対策として、外部収蔵庫（KICK）では、棚内収蔵品の落下防止対策エリアを拡大することができた。展示・収蔵施設の温湿度管理は、所管7か所の建物内について通年モニタリングを実施しデータの蓄積を図るとともに、それらの解析結果を受けて、より適切な展示・保存環境の保持に向けて建物毎の対応策を検討することができた。今後も継続してモニタリング活動を進めるとともに、他館との情報交換などを実施し、より適切な環境保持に対する調査研究に繋げていきたい。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1)有形文化財の収集・保管・次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 2)有形文化財の保存								
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。 イ 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (奈良国立博物館) ア 展示施設及び展示ケースの温湿度管理の徹底を図り、無線 LAN によるデータ管理システムを更に充実させる。 イ 展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。									
担当部課	学芸部			事業責任者	保存修理指導室長 鳥越俊行				
【実績・成果】 (4館共通) ア 館内における文化財害虫の生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示に関わる箇所を中心に昆虫調査用トラップを設置しモニタリングを実施した。トラップは約2か月に1度交換し、調査結果を蓄積するとともに傾向を分析することにより I P M を推進した。文化財害虫の生息リスクのある古い展示ケースには防虫シートを設置し、収蔵場所のほこり対策には防塵マットを定期交換するなど、展示・収蔵環境の衛生保持に努めた。 イ 保存修理指導室で作製した文化財の写真添付が可能な作成フォームを用いて、107件の保存カルテを作成・保管した。 (奈良国立博物館) ア 無線 L A N によるリアルタイム温湿度管理システムを運用し、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示環境の変化について、監視並びに即時の対応を実施した。無線式温湿度センサーは展覧会の都度設置しており、展示終了後にはデータの分析を行い今後の参考資料とするとともに、蓄積した温湿度測定データを館内環境の改善に役立てた。 イ ・展示ケース内の粉塵調査を正倉院展終了後の11月15日に実施した。また、劣化した展示ケースのシール部分を交換・修理し、気密性の向上を図った。 ・展示室の無線 L A N 温湿度管理システムによる24時間モニタリングと展示室入口のエアカーテンを適切に運用することで館内温湿度負荷の低減を図り、年間を通じて安定した温湿度環境を維持した。									
 昆虫調査用トラップの設置作業									
【補足事項】 (4館共通) ア 館内の展示室・収蔵庫や文化財保存修理所等100か所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制で2か月に1回設置・回収を行った。回収したトラップに捕獲された害虫の同定は外部業者に委託し、種類や捕獲数に関する情報の蓄積を行うとともに、害虫被害が懸念される箇所を中心に対策を実施した。併せて害虫発生を防ぐための清掃等による衛生環境の改善・保持など I P M の実践につなげた。 (奈良国立博物館) ア 機械式自動調湿装置を内蔵した展示ケースを使用することで、多数の観覧者によるケース内の急激な温湿度変化を緩和し安定した展示環境を保つことができた。									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
-		-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 30年度に引き続き、当初の予定通りに温湿度の管理、文化財害虫への対策等が実施でき、文化財の管理・保存が図られた。必要に応じて展示ケースのシール部分の交換や修理等を進め、展示環境の向上を図った。						
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 管理・保存のために、温湿度・生物生息等に対する計画的な対策を実施でき、中期計画は順調に進んでいる。2年度以降も展示・保存環境の把握に努め、適切に対応することにより文化財の維持・管理に努める。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 2)有形文化財の保存							
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵品等の生物被害等を防止するため、IPM（総合的有害生物管理）の徹底を図る。 イ 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (九州国立博物館) ア 館内の温湿度・生物生息など保存環境に関するデータを蓄積する。 イ 全館的視野に立った収蔵品等の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。								
担当部課	学芸部博物館科学課			事業責任者	課長 木川りか			
【実績・成果】 (4館共通) ア 文化財害虫の発生を防止するため、温湿度管理、生物処理、昆虫トラップの観察などを徹底して行った。 イ 収蔵品の保存カルテを96件作成した。 (九州国立博物館) ア 展示室・収蔵庫の温度・湿度データを蓄積し、すぐに活用できるようにした。通常の粘着トラップを館内全域約440か所に設置し、2週間ごとに交換・観察した。さらに面積の広い捕虫粘着シート（虫ペチャシート）も活用し、文化財害虫の進入経路等の把握に努め、文化財害虫に対して早期に対処することができた。 イ 展示室・収蔵庫等の空気質について調査を進めた。調査結果をもとに、より良い展示・収蔵空間を作り出すための方策を検討し、温湿度の調査結果とともに環境保全に努めた。								
【補足事項】 ア ・展示ケース内に温度・湿度のデータロガーを設置し、測定結果をもとに適切な温度・湿度で展示するよう務めた。 ・館内に設置した粘着トラップ及び捕虫粘着シート（虫ペチャシート）で細やかなモニタリングを行い、徹底清掃など速やかに防虫対策を講じることができた。 ・地元のNPO法人（ミュージアムIPMサポートセンター）と市民ボランティアとの連携を進め、当館のIPM体制を維持することができた。地元NPO法人の行うIPMメンテナンス及びトラップ観察に市民ボランティアが参加することは、ボランティア自身にとって博物館でIPM活動を行う意義について再認識する良い機会となった。 イ 文化財を展示する空間の空気質に関して調査した。収蔵庫、展示室、展示室周辺の廊下、展示ケース内など様々な場所の空気質を測定し、より良い展示・収蔵空間を作り出すための方策を検討した。								
								
			展示室周辺の廊下の空気質調査の様子		展示ケース内の空気質調査の様子			
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年 変化	27	28	29	30
殺虫殺菌処置	19件	－	－		12	58	35	26
保存カルテ作成件数	96件	－	－		91	81	102	101
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 収蔵庫、展示室、展示ケースの温度・湿度データを蓄積し、文化財を安全に保存・活用するための環境整備をすることができた。また、地元NPO法人と市民ボランティアとの連携を行い、IPM活動の体制を維持することができた。空気質の調査に関しては、今後調査結果をふまえ、方策を検討したい。						
【中期計画記載事項】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度に関してはこれまでどおり、データを収集し、適切な温度・湿度管理に努めた。館内に設置した粘着トラップ等の結果をもとに清掃箇所等を選定し、文化財害虫の発生を防ぐことができた。今後は空気汚染を含めた環境保全に力を入れ、対策に役立てるデータを蓄積する。						

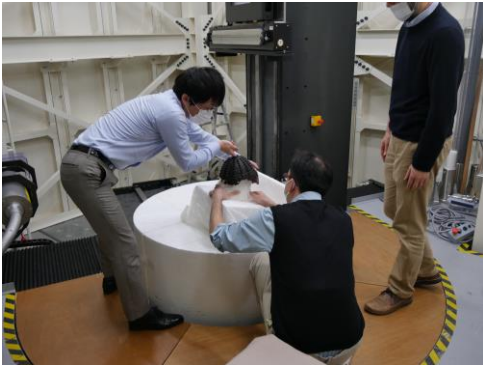
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積								
【年度計画】 (東京国立博物館) ア 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい絵画、書跡、染織、考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に 27 年度より実施している国宝「医心方」の修理に継続して取り組む。 イ 引き続き国宝・重要文化財の中長期的修理計画を策定する。 ウ 保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。									
担当部課	学芸研究部保存修復課			事業責任者	課長 富坂賢				
【実績・成果】 (東京国立博物館) ア 保存修復課に、彫刻や工芸品など立体の修理技術者1名、装こう関連修理技術者のアソシエイトフェロー1名を配置し、館内で実施する館蔵品の応急(対症)修理を行った。作品の劣化予防のために452件の応急修理を実施した。 イ 修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む250件の作品に関して修理仕様の検討を行ない、中長期修理計画策定を進めて、24件の本格修理を実施した。 ウ データベース構築のために、30年度に修理が完了した19件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書XX』を刊行した。									
【補足事項】 ・国宝「医心方」（平安～江戸時代）独立行政法人国立文化財機構文化財保存活用基金により、修理を継続した。 ・国宝「国宝 埴輪挂甲武人」（土製、古墳時代・6世紀、群馬県太田市飯塚町出土）はバンク・オブ・アメリカからの寄附金により修理を実施・完了した（29年3月着工、工期28か月）。 ・国宝「普賢菩薩像」（絹本着色、平安時代・12世紀）は紡ぐプロジェクトからの寄附金により修理を実施した（31年4月着工、工期30か月）。 ・重要文化財「九条袈裟」（絹製・羅・緯糸、元～明時代・14世紀）はバンク・オブ・アメリカからの寄附金により修理を実施した（30年4月着工、工期24か月）。									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	27	28	29	30
修理件数（本格修理）		24件	－	－		86	68	69	26
修理のデータベース化件数		19件	－	－		90	61	47	98
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 緊急性の高い本格修理及び対症修理、計画立案のための事前調査を計画的に実施した。運営交付金による修理費が伸び悩む中、寄附金の獲得に努め、国宝3件、重要文化財1件を含む修理を実施した。なお、本格修理の件数が減少しているのは、30年度からの継続事業に修理費をあてたことなどによるため、中期修理計画は予定通りに運用している。応急修理件数は30年度より増加しているが、これは貸与促進事業等に貸し出す作品の応急修理件数等が増えたことも要因である。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に従い、事前調査、対症修理、本格修理の各段階で保存科学と修理技術が連携して保存修理事業にあたり、博物館活動に対して最適な作品修理を行うことができた。今後常駐する修理技術者を増員し、文化財の安全な活用を担保できる環境を整えたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1 計画的な修理及びデータの蓄積							
【年度計画】 (京都国立博物館) ア 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「大手鑑（八十葉）」の修理に継続して取り組む。 イ 引き続き収蔵品の中長期的修理計画の策定を検討する。 ウ 修理資料のデータベース化を図る。								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 羽田聡 保存修理指導室長 大原嘉豊					
【実績・成果】 (京都国立博物館) ア ・「天保九如図・四季草花図屏風」等の本格修理を行い、劣化の予防に努めた。 ・4か年計画の4年目となる「重要文化財 大手鑑（八十葉）」の修理を完了した。 ・5か年計画の3年目となる「重要文化財 若狭国鎮守神人絵系図」の復元模写を進めた。(処理番号「1421Bア」参照) イ 収蔵品の中長期的修理計画の策定の検討を行った。 ウ ・元年度は171件の新規修理文化財搬入がありデータベース化を行うとともに、過去のデータに関して2,049回追加、更新を行った。 ・保存修理所創設以来の非電子化修理報告のPDF化を進め、元年度は105件の修理記録のPDF化を行った。								
【補足事項】 ア 緊急性の高い作品を優先に、12件の本格修理を行った。 (絵画2件、書跡3件、金工2件、考古5件) ・修理風景写真								
								
「阿弥陀八大菩薩図」の解体作業の様子		「埴」の解体クリーニング中の様子						
【定量的評価】 項目	元年度実績	目標値	評価	経年 変化	27	28	29	30
修理件数（本格修理）	12件	-	-		12	14	11	17
修理のデータベース化件数	171件	-	-		113	151	180	149
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 元年度も多分野にわたって、緊急性の高い収蔵品から計画的に修理を行う事ができた。また、4か年事業の重要文化財「大手鑑（八十葉）」の修理についても最終年度として完了した。そして、修理件数についても予定通り進行する事ができた。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 寄附金等を活用し、中期計画に基づき、緊急性の高い作品から修理を実施する事ができた。また、中期計画に基づき、保存科学研究員や機構外の修復技術担当者との連携し、伝統技術と科学技術のお互いの最新知見から最適な修理方法を検討する事ができた。 修理に要する予算の確保が困難な状態が続いており、憂慮している。2年度以降は寄附金等の外部資金を上手く活用し、緊急性が高い収蔵品の修理に計画的に取り組んでいきたい。						

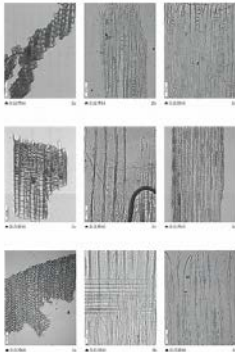
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積							
【年度計画】 (奈良国立博物館) ア 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努めるとともに、劣化の著しい彫刻、絵画、書跡、漆工や考古の収蔵品を中心に緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「絹本著色道宣律師像」等の修理に取り組む。 イ 引き続き収蔵品の中長期的修理計画を策定する。 ウ 修理資料のデータベース化を図る。 エ 寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。								
担当部課	学芸部		事業責任者		保存修理指導室長 鳥越俊行			
【実績・成果】 (奈良国立博物館) ア ・館蔵品本格修理8件のうち、新規7件、30年度からの継続事業1件を実施した。 内訳 絵画2件、彫刻2件、書跡1件、工芸2件、考古1件 ・年度内に6件が完了した。 イ 22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、館蔵品修理を計画通りに実施した。 ウ 『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第1号を6月に刊行した。また、修理報告資料を整理しデータベース化に努めた。 エ 寄託所蔵者と協議を行い、寄託品2件について当館の推薦による財団からの助成を受けて修理を実施した。								
【補足事項】 (奈良国立博物館) ア 収蔵品の修理を目的とした募金箱について、従来の設置場所以外に特集展示「新たに修理された文化財」の期間中、展示会場に設置した。 ウ 29年度に修理の完了した文化財を掲載した『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第1号を刊行した。26～29年度の材質調査や銘文集成なども掲載することで、修理実績や内容を広く伝えることができた。 エ 寄託品修理として、新規に法隆寺所蔵 重要文化財 木造天蓋附属飛天（琵琶）の1件を着工した。京都・眞輪院所蔵 絹本著色両界曼荼羅は住友財団の助成により2か年継続で修理を行っており、2年度末に修理完了の予定。京都・大覚寺所蔵 絹本著色五大虚空蔵像は出光文化福祉財団の助成により元年度から2か年の予定で修理を実施しており、2年度に修理が完了する予定。								
								
					『奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書』第1号			
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年 変化	27	28	29	30
修理件数（本格修理）	8件	—	—		11	7	6	6
修理のデータベース化件数	74件	—	—		66	62	69	63
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 30年度から実施している継続事業による修理のほか、新規事業による修理にも着工でき、計画的に修理が実施できている。また、本格修理及びデータベース化の件数は、概ね予定通り進行した。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 財団助成や寄附金、募金等を活用し、緊急性の高いものから順次修理を実施することができた。また、当館保存担当研究員と文化財保存修理所の修理技術者が連携し、X線CTやX線透過撮影、蛍光X線分析などを実施することで、適切な修理の基礎資料とした。中期計画は順調に進んでいる。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1)有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理 3)-1計画的な修理及びデータの蓄積								
【年度計画】 (九州国立博物館) ア 文化財の劣化の予防に努めるとともに、必要となる応急修理を適正に実施し、また緊急性の高いものから本格修理を実施する。特に重要文化財「対馬宗家関係資料」等の修理に継続して取り組む。									
担当部課	学芸部博物館科学課			事業責任者	課長 木川りか				
【実績・成果】 ア ・館蔵品を中心に、損傷状況や展示計画等を勘案し、緊急性の高い文化財36件（本格31件、応急5件）の修理を実施した。 ・当館に文化財保存修復施設が設置されている利点を生かし、施設使用者の協力を得て館蔵品の保存状態調査を的確に行うことができた。そのため解体修理が必要なものは2年度の本格修理候補とし、軽微な保存処置で済むものは応急処置を行うことができた。また、寄託品や九州所在の地方自治体・社寺等所蔵品等の保存状態調査を行い、正確な診断、現実的な修理計画を立てることができた。									
【補足事項】 ・重要文化財「対馬宗家関係資料」を含む館費による修理件数 36 件(本格 31 件、応急 5 件)の内訳： 絵画 7 件(本格 4 件、応急 3 件)、書跡 1 件(本格 1 件)、彫刻 1 件(本格 1 件)、漆工 1 件(本格 1 件)、金工 6 件(本格 6 件)、刀剣 1 件(本格 1 件)、染織 1 件(本格 1 件)、考古 12 件(本格 11 件、応急 1 件)、民族資料 2 件(本格 2 件)、歴史資料 4 件(本格 3 件、応急 1 件) ・修理中の「花鳥図巻」(当館所蔵)の彩色材料と技法の調査のため、修理中にしか行えない裏彩色の観察、可視光、反射・透過赤外線写真の撮影と顕微鏡写真の撮影を行った。 ・当館文化財保存修復施設使用者の協力を得て、当館寄託の福岡・勝福寺や幻住庵所蔵等の文化財の保存状態調査を行った。また、大分・萬壽寺等所蔵文化財の保存状態調査を行い、本格修理を事業化した。 ・当館の寄付会員制度「賛助会」の寄付金を使用し、「渡唐天神像」と「深鉢形土器」(当館所蔵)の本格修理を行った。「深鉢形土器」については修理後に平常展示で公開した。「渡唐天神像」については1年保管した後の2年度に公開する予定である。									
									
「花鳥図巻」の裏彩色の顕微鏡写真 (桃色絵具は、Pb 系白色顔料と Hg 系赤色顔料の混合であった)				賛助会費修理による「深鉢形土器」の展示風景					
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価	経年 変化	27	28	29	30
修理件数（本格修理）		31件	－	－		22	18	19	40
修理のデータベース化件数		－	－	－		－	－	－	－
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 重要文化財「対馬宗家関係資料」を含む31件の本格修理を計画的に実施することができた。また、修復施設使用者の協力が得られたことで、保存状態調査を効率的、的確に行うことができ、2年度の本格修理の計画を策定することができた。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 当機構所属の保存科学研究員や機構内外所属の修復技術担当者と連携し、伝統技術に科学技術を取り入れながら中期計画に沿って計画的に保存状態調査や修理を実施した。修理が完了した作品は、作品の状態を考えながら展示に活用した。 調査研究設備については、更新、保守、改良を行い、精度の高い分析値が得られるようにした。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 (4館共通) ア 修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。									
担当部課	学芸研究部保存修復課			事業責任者	課長 富坂賢				
【実績・成果】 (4館共通) (東京国立博物館) ア 商山四皓図 (N-4) の赤外線撮影調査、蛍光X線分析を行い、劣化状況の確認と材料、描画技術の調査研究を行った。雛雀図 (TA-355)、五馬図巻 (TA-694) の紫外線蛍光撮影調査と赤外線撮影調査、月次風俗図屏風 (A-11090) の赤外線撮影調査、X線撮影調査し修理方針作成に寄与した。また、引き渡し後となったが五馬図巻の蛍光X線分析、繊維組成試験を行い、本体の材質を調査し修理方針作成に寄与した。 受託研究事業の一環で、陸前高田市博物館所蔵のガラス乾板の修理前蛍光X線調査を行い津波由来物質の調査を行い、汚染物質の人体への影響がないことの確認、クリーニング処置の有効性を適宜確認して修理作業の進行に寄与した。									
【補足事項】									
									
図 1. 月次風俗屏風の X 線撮影の様子					図 2. 商山四皓図赤外線調査の様子				
【定量的評価】 項目	元年度実績		目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
-	-		-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 修理作品決定から引き渡しまでの限られた時間で元年度の主要な修理作品の科学分析や光学調査を行った。今後は作品選定の段階から積極的に調査を行い、修理方針の立案に寄与するように取り組む。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 制度化されるには至っていないが作品の分野担当者と保存科学研究員とで修理前の調査・分析が意識されるようになってきた。しかし、分析機器、撮影機材の交換時期が順次せまっており、データの保存や継続性を考えた機器の交換など対処が必要である。今後も計画的に設備更新を行い調査の継続性を維持できるようにする。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 (東京国立博物館) ア X線CT スキャナを運用し、研究の進展を図り、より適切な修理方法を引き続き検討する。									
担当部課	学芸研究部保存修復課				事業責任者	課長 富坂賢			
【実績・成果】 (東京国立博物館) ア 収蔵品を中心に特別展(東寺展)、国宝重要文化財新指定品などの作品について93件のX線CT撮影を行い、研究を進展させた。銀象嵌鏡(列品番号 J-2191)の調査では撮影画像の解析に加え、X線CT画像を用いて蛍光X線分析を行い、その結果と考古学的考察と合わせた研究成果をMUSEUM No. 683で発表した。また、如意輪観音菩薩坐像(C-1883)のX線CT撮影画像から画像処理した画像と三次元プリンター出力品を用いた研究を彫刻史担当者とまとめてMUSEUM No. 683で発表した。十二間星兜(F-16027)の修理後のX線CT撮影を行い修理の結果を検証した。 また受託研究事業の一環で、陸前高田市博物館所蔵「金銅装双塔文笈」の錆びた金属釘の除去の際、内部の金属の残存状況をX線撮影画像で適宜確認し、修理作業進行に寄与した。									
【補足事項】									
									
図1. F-16027 十二間星兜のX線CT撮影の様子					図2. 如意輪観音菩薩坐像頭部の研究に用いた3Dプリンター出力品				
【定量的評価】項目	元年度実績		目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
-	-		-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 撮影、画像処理、3次元出力などの手法を用いて調査した作品の研究成果を出版し、成果を公開できた。また、修理前作品の調査に加え、修理後の調査を行えたことで、修理の成果を把握することができた。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 X線CT装置を導入して6年目になり、データの応用範囲が博物館教育分野にも広がっている。得られたデータを活用して三次元プリンターで複製品を作成するなど、撮影調査だけでない活動が行えるようになってきたことが評価できる。一方、装置の定期的な点検、消耗部品交換を行っているが経年劣化が進み、機器の故障より安定した調査が継続できなかったことが課題である。故障の原因を究明して安定運用に努める。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 (4館共通) ア 修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種化学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 (京都国立博物館) ア 仏像や厳封された納入品等のX線CT撮影を行い、適切な修理指針の検討に役立てる。 イ 蛍光X線分析や分光分析等の非破壊的な分析手法を用い、彩色材料等の分析事例を集積することでより統計的に有意義なものとし、修理への活用を模索する。									
担当部課	学芸部			事業責任者	保存科学室長 降幡順子 保存修理指導室長 大原嘉豊				
【実績・成果】 (4館共通) ア 元年度、所蔵者の協力を得て文化財修理所内工房と実施した科学分析調査は、作品の内部構造調査として、I.Pを用いたX線透過撮影9回、FPDを用いたX線透過撮影1件、X線CT撮像3件を実施した。作品の材質調査としては蛍光X線分析調査21件、分光分析調査3件、FT-IR調査1件、ポリライト観察1件である。 (京都国立博物館) ア X線CT撮像では、たとえば東寺蔵の二間観音像調査では、内部構造・ほぞの構造について、上杉神社蔵の明代冠服類では冠の複数ある布地材の重複関係について可視化することができ、修理前に画像提供することで修理指針に貢献することが可能となった。 イ 非破壊的な分析調査では、修理所工房からの依頼による調査として絹本・紙本の絵画資料の彩色材料調査や古楽器の調査を実施した。彩色材料等の情報についての蓄積とともに、修理技術者との情報共有を図ることができた。									
【補足事項】  彩色材料調査風景									
【定量的評価】	項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
	-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 元年度も継続して従来から実施している展示前状態調査や文化財修理所各工房からの修理前・後調査依頼を受け入れ、透過X線撮影、X線CT撮像、FT-IR分析、蛍光X線分析等の調査を行った。修理前調査では、文化財の構造調査、材料調査を実施し多くの情報を修理技術者と共有することができ、修理方針の策定などに役立てた。今後も継続を図るとともに成果の発信へも取り組んでいきたい。							
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 修理に係わる科学調査の実施は、その比重も徐々に大きくなり、調査項目も増加傾向にあることから、有形文化財に関連する調査研究について順調に成果を上げているといえる。基本設備については従来通りではあるが、今後も調査、検討を重ね、修理事業者へ提供できる基礎的情報の蓄積を図るなど、継続的に実施していく必要があると考えている。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3) 有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 (4館共通) ア 修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 (奈良国立博物館) ア 木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 イ X線CT撮影、X線透過撮影等の機器により調査を行い、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。									
担当部課	学芸部		事業責任者		保存修理指導室長 鳥越俊行				
【実績・成果】 (4館共通) ア 紙文化財の修理を行っている当館文化財保存修理所の文化財保存と共同で修理文化財の紙質調査を行い、修理方針の検討資料とした。 (奈良国立博物館) ア 文化財保存修理所で修理を行った木造彫刻作品について、30年度に引き続き京都大学生存圏研究所と連携し樹種同定調査を行った。同定結果は修理に活用している。(実施計2件) イ ・館蔵品や寄託品の修理の際に、当館が保有する光学機器を用い、当館研究員と文化財保存修理所工房職員が共同で赤外線撮影や蛍光X線分析、X線CT等を実施するとともに、修理方針の検討資料とした。 ・絵画作品の修理の際に、詳細な観察を行うため赤外線撮影を実施した。(実施計6回)									
									
					修理報告書に掲載した樹種同定調査結果				
【補足事項】 (4館共通) ア 当館の館蔵品や寄託品の修理に際して、文化財保存修理所の各工房と当館研究員が共同で文化財調査を実施し、データの収集・共有化に努めた。これらの調査を円滑に実行するため、当館に設置されている光学機器(高精細デジタルカメラ、近赤外線カメラ、蛍光X線分析装置、X線透過撮影装置、X線CT装置など)を積極的に利用し活用を図った。									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
-		-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 京都大学と引き続き連携して彫刻作品の樹種同定調査を行うとともに、絵画作品の赤外線撮影を実施するなど、8回の調査を実施し、修理所との連携を進めている。今後も必要に応じ各種の調査を実施することで、よりよい修理のためのデータ取得と活用を図る。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 保存科学担当者と修理技術者が、修理前や修理中の文化財に対して繊維同定や樹種同定などの科学分析を行うことで、適切な修理のための基礎資料とするとともに、その成果をふまえ計画的な修理を実施した。絵画作品に対して赤外線撮影を実施し修理に活用することにより、文化財の修理指針の検討に役立てた。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 3)有形文化財の修理 3)-2科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】 (4館共通) ア 修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 (九州国立博物館) ア 修理作品の状態を、実体顕微鏡観察を基本としてX線CTスキャナ、X線透過撮影等の各種光学的調査も駆使して正確に判定し、修理指針の策定に資する。								
担当部課	学芸部博物館科学課			事業責任者	課長 木川りか			
【実績・成果】 (4館共通) ア 30年度に引き続き、重要文化財「対馬宗家関係資料」(当館所蔵)等の紙本文化財の繊維同定を行い、修理対象と同質の補修紙を作成した。 ・修理中にしか見ることができない「花鳥図巻」(当館所蔵)の裏彩色の顕微鏡観察と蛍光X線分析を行い、鉛系白色顔料に様々な有色顔料を混ぜたものが使用されていることが明らかになった。 (九州国立博物館) ア 花鳥螺鈿筆筒(当館所蔵)及び漆山水人物螺鈿料紙箱(浦添市美術館所蔵)などのX線CTスキャンを実施し、修理に必要な構造調査を行った。								
【補足事項】 ・修復施設1～3と修復施設4(10月～)では、修理工房宰匠が館費修理品12件のほか、国宝「琉球国王尚家関係資料」文書記録類(那覇市所蔵)など、合計38件の修理を実施した。 ・修復施設4(～8月)では、美術院が館費修理品1件のほか、重要文化財「木造釈迦如来坐像」(佐賀・東妙寺所蔵)など、合計6件の修理を実施した。 ・修復施設5では、芸匠が館費修理品13件のほか、重要文化財「福岡博多遺跡群出土品 陶器・磁器」(福岡市埋蔵文化財センター所蔵)など、合計16件の修理を実施した。 ・修復施設6では、大西漆芸修復スタジオが館費修理品1件のほか、国宝「婚礼調度類(徳川光友夫人千代姫所用)のうち書棚」(徳川美術館所蔵)など、合計6件の修理を実施した。 ・当館所蔵品の館外修理は、岡墨光堂が「花鳥図巻」など2件、小宮光敏が「脇差」1件、八木鍔金が重要美術品「梅竹の図真形釜」など6件、合計9件を実施した。								
								
「如来坐像」(当館所蔵)修理協議の様子								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 九州等所在文化財66件の修理のために当館修復施設を活用した。また、漆工品のCT調査や紙文化財の材質分析を行い修理方針を検討するなど、伝統的な修理に科学調査の結果を取り入れ、適切な修理を実施することができた。						
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 修復施設使用者と連携しながら作品の状態調査を行い、適切な修理計画を策定し、計画的に修理を実施することができた。修理は、伝統的な技術で行いながら、修理中にはX線CTや紙繊維同定などの科学調査を行い、伝統技術に科学技術を取り入れた修理を実施できた。 当館は開館14年目となり、開館当初に導入した分析機器類は更新の時期を迎えている。30年度はCT装置を更新したが、2年度以降も計画的に更新したい。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管・次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修理施設等の運営							
【年度計画】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 (京都国立博物館) ア 文化財保存修理所及び仮工房等の施設を計画的に運用し、文化財の積極的な保存修理を図る。								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 西尾佐枝子 保存修理指導室長 大原嘉豊					
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア ・文化財保存修理所の整備・充実のため、定期的に工房との修理者協議会を開催した。 (京都国立博物館) ア ・文化財保存修理所運営委員会を開催し、修理所の運営について審議した。 ・経年により老朽化により振動が生じていた天井クレーンについて、仕様を見直したうえで更新を行った。 ・各所老朽化した設備（空調機加湿ユニット、熱源整備他）の修繕を行った。 ・写場の照明設備をLEDに改修した。 ・階段（避難経路）の照明設備の照明設備をLEDに改修した。 ・地下一階防火鉄扉の防カビ塗装を行った。 ・修理所内の全ての防火戸の電磁レリーズ（自動開閉装置）の更新を行った。 ・写場の天井灯の交換を行った。 ・玄関自動扉の修繕を行った。 ・防災体制の充実を図るため、文化財保存修理所での防災訓練を実施した。								
【補足事項】  更新した天井クレーン								
【定量的評価】 項目	元年度実績	目標値	評価	経年 変化	27	28	29	30
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所運営委員会及び修理者協議会を予定通り開催した。 老朽設備の改善を適時適切に行った。文化財保存修理所において、文化財の適切な保存修理環境を維持するため、保存科学室の助言を得て地下一階防火鉄扉の防カビ塗装を行う等、設備等の改修を実施した。						
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 工房と協力しながら文化財保存修理所の整備を進めており、整備充実を実施できた。 設備面での老朽化は目立つものの、足りない部分を防災訓練や減災に向けた手段を講ずるなど、色々な方法で補うように努力を続けている。今後も中期計画の達成に向けて引き続き、整備・充実を進めていく。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修理施設等の運営								
【年度計画】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 (奈良国立博物館) ア 文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的な保存修理を図る。									
担当部課	学芸部			事業責任者	保存修理指導室長 鳥越俊行				
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所のブラインドが故障したため、部品交換を実施した。また、空調機が劣化してきたため、予防保全の観点から部品を交換した。 (奈良国立博物館) ア ・文化財保存修理所運営委員会を5月15日に開催し、修理所の円滑な運用に努めた。修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の3工房代表者と当館学芸部で文化財保存修理所協議会を開催(1回目は9月30日に開催、2回目は2年3月5日に開催)。各工房における修理事業の実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境の改善に関する課題などを討議した。 ・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を5回実施した。									
【補足事項】 ・12月24日から2年1月13日まで、当館西新館第1室において特集陳列「新たに修理された文化財」を開催した。30年度に文化財保存修理所各工房などで修理が完了した11件の当館収蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示することで、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。 ・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットを、修理所公開や国内外の修理専門技術者による修理所視察などの機会に配布した。 ・2年1月9日に文化財保存修理所特別公開を開催し、修理の取り組みや修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。報道機関を含む148人の参加があった。									
					文化財保存修理所特別公開の様子				
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
-		-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 運営委員会及び所内3工房代表者との協議会を開催し、修理の実施状況の確認及び保存環境の改善について協議するなど、情報の共有に努め、文化財保存修理所を円滑に運営することができた。						
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所を円滑に運用するとともに、X線CTによる修理への応用や文化財被災時に修理技術者と連携できるように意見交換を行った。その成果を踏まえた文化財に対する積極的な保存修理を実施することができ、中期計画は順調に進んでいる。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承 ③有形文化財の管理・保存・修理等 4) 文化財修復施設等の運営							
【年度計画】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア 文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。 (九州国立博物館) ア 文化財保存修復施設を運営し、文化財の保存修理に積極的に活用する。								
担当部課	学芸部博物館科学課			事業責任者	課長 木川りか			
【実績・成果】 (京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) ア ・生産が終了しつつある蛍光灯について、装こう文化財の修理で使用する透過光源を蛍光灯からLEDに変更した。蛍光灯からLEDへの変更したことで省エネ対策になった。 ・カメラの高解像度化により、撮影で使用しているロールスクリーンの布地が目立って写るようになったため、撮影に影響のないものに新調した。これにより、違和感のない修理前後写真の撮影が可能となった。 (九州国立博物館) ア ・6つの修復施設の全てにおいて、修理事業者による修理事業に使用された。 ・当館文化財保存修復施設にて、当館経費による修理27件及び所有者等負担による修理39件、合計66件の修理事業を実施した。その他、館外で当館経費による9件の修理事業を実施した。								
【補足事項】 ・修復施設は事前確認公募の結果、次の事業者が使用することとなった。 修復施設1～3は修理工房幸匠、修復施設4は美術院、修復施設5は芸匠、修復施設6は大西漆芸修復スタジオ。 修復施設4は、8月で美術院の事業が完了したため10月以降は修理工房幸匠が使用し、効率的に施設が使用された。 ・当館文化財保存修復施設は、施設内で修理を行った文化財のうち所有者等負担による修理品39件の所在地の内訳が、福岡県7件、佐賀県3件、長崎県2件、熊本県8件、鹿児島県1件、大分県2件、宮崎県3件、沖縄県2件、山口県2件、広島県1件、京都府2件、愛知県3件、東京都1件、国外2件となっており、九州山口地区の文化財修理の拠点としての役割が定着している。 ・上記修理品39件の約半数である19件が国指定・地方指定文化財を占めている。								
【定量的評価】 項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
-	-	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修復施設で使用する透過光源と撮影機材を最新の機器に対応したものにすることにより、修理技術や修理記録をより精度の高いものにすることができた。 当館の文化財保存修復施設は、九州山口地区における文化財修理の拠点として活用され、確実に成果を上げている。						
【中期計画記載事項】 文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 国指定・地方指定文化財を含め順調に修理事業を行い、中期計画に沿って修復施設を活用することができた。修理品は、九州山口地区の文化財が中心になっており、当館が西日本の文化財修理の拠点になってきている。今後も計画的に修理事業を進め、修復施設の活用を継続したい。						



新調したロールスクリーン